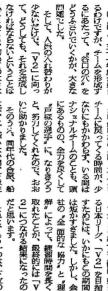
版高校 (同) 、武 敬大学 (同)をそれぞれ卒業。 現在、女子家菜団チー

瓦蓉中学(東京)、京

伊本日出夫



力を要することだったのです っても、私にとっても六変な系 いるということは、チームにと めに、林田、大概が常時抜けて 気製でした。 私にとっても、初めての大きな そのうえ、オリンピックのた 木が、二人がいない間、下級生 いに助かりました。 そのうべ、同年代の合原、船

だと思います。

それと、もう一つは、下位の を強いられました。 騒後の最後

た決意からいえば、非常にだら

"全勝"で優勝を決めたかっ

が、大きく働いて、大変な苦酸

2」につながる結果になったの

るわけですが、チームを形成す チームに戻ってくる時間が、少 る日本リーグ、「Y2」を目指 いよいよ、五十一年度が始ま ナショナルチームのことも、頭 ないにもかかわらず、いる間はすためには、いかにもこの期間 『戸域の選手』に、なりきつう 解』によって、練習時間を長く にあるものの、全力を尽くして 社の"全 面的な 協力"と"理 さいわいなことに、二人とも は短かすざました。しかし、会 ってから、約一ケ月後に始ま その(21)

合原、船木が五輪組の留守支え

ある程度「勝つ計算」も

も、崩れそうになる。チームワーとが、少しアつチームを仕上げ、くり返して、2点差で勝てたと、まったわけですが、それならば、ャパソに向って練習を開始しまの「ヤオ・モテ」に 立ちながら、チームから当っていくというこ、まで、負けていたゲームをひっ しのないゲーム結果となってし、ファイトを燃やして、オールシ ーク。を、非常によく支えてくていく良い過程になったことも 計ができないチームだった 昨年 のチーム に勝つことが きました。 て、大きな自信を持つことがでいればと、おおいに反省したもいうことは、次のゲームに対しこの結果を、より有効に使わない そのうえ、リバウンド総数か

区舞岡町一二二一二一六 和十六年七月七日生まれ

△現住所>核浜市戸塚

台の日立戸塚コーチ。昭

電話の四五 (八三二) 二

れた、努力も見逃せない学実で見逃がせません。

オリンピック、中国遺配が終

したがって、対ユニチカ山の

 ^続く〉

看板をあげ "パスケットでメシを食う" 決心を固めた。 そして様々な苦労を重ねなが た。その心、日立戸塚を見るようになった時、どうせやるならーと「プロコーチ」の

十年前のある役、杉野短六のコーチ依頼を受け、引き受けたことが私の人生を変え

前号までのあらすじ=

対ユニチカ山崎戦に"焦京"を 計算」があったうえで、徐々に 選びだったのですが……、今年 果が表現されるような、ゲーム ームがたくさんあり、終ってみ った形になりました。

ら負けられない」という要素 戦では、どうしても「それだか 比べて見れば、ある意味では染名古屋戦で、優勝が決まるとい チーム作りだったので、昨年と 合わせていくという、前半戦の しかし、前期のユニチカ山崎で行なわれた第一働銀戦では、 手のつけられないほど、コテン パンにやられてしまいました。 う安易さも手伝って、次の高松 われた十一月七日の対三菱電機

な面もありました。

て、初めて勝ったのだという結いうことは、これだけを、なんまりました――。そうすること 楽な『試合運び』ができるので 勢にもかかわらず、勝てたと らいうと、4-25という。劣 題」をあらたに、私自身が背負 はないか……という大きな「宿 とかすることによって、もっとによって、気分をひきしめ、オ 後期に入って、名古屋で行な 者」ともいえる形相で選手に迫 ないぞーという、いましめに 願を、より安易な気持では取れ ールジャパンでの「V2」の窓 ユニチカ山崎に、いろいろな数 もしたかったわけです。 戦までの一週間は、『地獄の使 字のうえでも『完勝』すること ゲームを展開することができ、 の最終戦では「計算とおり」の そのかいあって、日本リーグ

鳥肌が立つほど、ゾッとする上 ことの困難さは、終ってみて、 ができました。 日本リーグで『二連覇』する

だろうかと、つくづく考えてし 的」で「味気ない」出来事なん うものは、なんとも「せ つ な まいました。 うな出来事の連続でした。 後性を考えるならば、 勝負とい しかし、多くの人達の忍耐と

決めるオールシャパンに勝つこ 性を払ってきたのだから、な 考えたことは、ここまで「袋 だという気がして、また新たな んとしても、「真の日本一」を とが、このことにむくいること そして、二週間の休みの間に

F

BASKE BAL MY S IF

会社の全面的支援も見逃せず

意義深かった。 そしてむかえた五十一年度。 「V2」 目指してスタートを切った。 **得した。この時、恩人の山内事業部長の急死というショックがあっただけに、よけい** を次々と破り逐に初優勝をとけ、さらに全日本総合も制綱して宿順の日本一の座を振 この年は全日本総合、日本リーグとも第三位になり、五十年をむかえた。そして強豪 ら日本リーグ入りを果たし、一時は疲労からやめようかとも考えたが大好きなバスケ ットや選手と別れてまでやめる勇気はなく、再度「日本一の座」を目指し前進した。

りかもかるかしのしょうべんかんりんりんがん かんかんしんりん かんしんしんりゅうかん